

Title	dentro de の空間的意味から時間的意味への拡張について
Author(s)	長縄, 祐弥
Citation	Estudios Hispánicos. 2016, 40, p. 65-82
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/98028">https://hdl.handle.net/11094/98028</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# dentro de の空間的意味から 時間的意味への拡張について

長 縄 祐 弥

## 0. はじめに

本稿では、Lakoff & Johnson (1980) が提起した概念メタファーのひとつである EL TIEMPO ES ESPACIO 【時間は空間である】を用いて前置詞句 dentro de の空間的意味と時間的意味を関連付けることが可能か考察をおこなう。ここでいう空間的意味と時間的意味は (1), (2) で用いられている意味、すなわち、前者は「箱の中に」と内部を示す一方で、後者は時間量を表す表現と共起し、「1ヶ月後に」と発話時からその時間量が経過した時点でイベントが実現されることを示すものである。

(1) El dinero está *dentro de* la caja.

(2) Volveré *dentro de* un mes.

(1), (2) – Salamanca (s.v. dentro) 原文は全てイタリック

空間的意味を中心的意味とし、そこから時間的意味が拡張していることはスペイン語でも主張されていることであり、例えば、Fernández Jaén (2014) は次のように、前置詞 en を例に時間的意味はメタファー的に拡張していると述べている。

«Los sintagmas preposicionales encabezados por la preposición *en* tenían en español antiguo un significado únicamente espacial (*El caballero estaba en su castillo*). Sin embargo, con el transcurso de los años estas estructuras han ido adquiriendo un significado nuevo por la acción de la expansión metafórica espacio > tiempo».

– Fernández Jaén (2014 : 90) イタリックは原文ママ

この立場<sup>1</sup>をとると、その時間的意味は空間的意味である「～の中に」に引きずられ、つまり、表された時間量の「中で」と解釈され、例えば(2)は「1ヶ月以内で」と解釈されるように思われるが、そのような解釈はなされず、「1ヶ月後」と解釈される。また、実際に文法書や辞書を参照しても、dentro de の時間的意味は「～後に」としているものがほとんどである。以上のことから、dentro de の空間的意味と時間的意味の間にずれが生じているように思われるため、空間的意味が時間的意味へ概念メタファーによって拡張しているという立場をとる場合、空間的意味のどの要素が時間的意味のどの要素と関連付けられているか、容易には認識しがたい。そのため、本稿では拙稿(2015)とは別の観点から、これら2つの意味の関連性について考察をおこなう。

## 1. dentro de の空間的意味

dentro de の空間的意味と時間的意味の関連性を考察するにあたり、最初に dentro de の中心的意味とされる空間的意味について、先行研究の記述をもとに概観する。

まず、辞書の記述を確認すると、Salamanca<sup>2</sup>では «En el interior de un lugar o espacio» (Salamanca: s.v. dentro) 『場所あるいは空間の内部』と定義されており、また DRAE では、«En el interior de un espacio real o imaginario» (DRAE: s.v. dentro) 『実際あるいは想像上の空間の内部』と定義されている。つまり、この前置詞句の最も基本的な意味は『空間の内部』であると考えられる。

---

1 英語では、先にあげた Lakoff & Johnson (1980) が時間を認識する際に、空間をメタファー化し、概念化していると主張している。また、日本語においては、初山(1992)および初山(1995)がさまざまな空間語彙を検証するなかで、空間的意味がプロトタイプ的意味で、時間的意味が非プロトタイプ的意味であることを結論として導いている。これらに加え、本多(2011)なども時空間メタファーについて論じている。スペイン語では Cuenca y Hilferty (1999) および Garachana (2011) がこのような立場にとり、特に後者は空間的移動を表す *ir*, *venir* や *volver* といった語が、時間的意味を有しているのはメタファー的解釈によるものであると主張している。一方、このような立場に対し、定延(2002)は空間と時間を峻別することに対して懐疑的な態度を示している。

2 Gutiérrez Cuadrado, Juan (dir.) (1996) *Salamanca: Diccionario de la lengua española*, Santillana

続いて、Slager (2010) は、類義と考えられている前置詞 **en** と比較しながら、**dentro de** は外側ではなく内側であるという概念を強調する語、つまり、**en** に比して、境界の概念を際立たせる語であると述べている。また、このように2つの表現にはニュアンスの差異があることを認めているものの、(3) を例文としてあげ、これら2つの表現は交替可能としている。

«Aparece con sentido espacial en frases donde compite con la preposición **en**, aunque **dentro de**, precisamente por no ser preposición y por admitir énfasis contrastivo, sirve mejor que **en** para subrayar la idea de delimitación (dentro, pero no fuera)».

(3) [**Dentro de** /**en**] un radio de pocos kilómetros, dispondrá de 12 campos de golf.

– Slager (2010 : 93)

また、Hernández (2013) は **dentro de** と **en** の空間的意味の類似に注目し、これらが交替可能である場合とそうでない場合を考察したものであるが、結論のひとつとして «La locución prepositiva *dentro de* se comporta como con-figurador descriptivo y marcador de bordes» (Hernández 2013 : 112) と述べ、**dentro de** は形状および外部と内部の境界を示すものとして機能するとしている。

これらに加えて、拙稿ではコーパスで **dentro de** と共起する名詞を観察し、**dentro de** は『*área, límite, marco, país* のような範囲を有する名詞、あるいは境界そのものを表す名詞と共起しやすい』(長縄 2015 : 102) ことを報告している。

以上の先行研究より、概して、**dentro de** の空間的意味はある空間の内部を示すものであり、さらに、内部と外部を隔てる境界がより意識されるものであると考えられる。

## 2. **dentro de** の時間的意味

先の項では **dentro de** の空間的意味を概観したが、続いて、その空間的意味から拡張されたと考えられている時間的意味について先行研究の記述をも

とに観察をおこなう。

例えば、Salamanca では時間的意味は以下のように2つの意味を有していると定義されている。

1. En la época o periodo de tiempo que se indica

2. En el preciso momento en que se cumple el periodo que se indica

– Salamanca (s.v. dentro)

1は *Dentro del Barroco destacan numerosos autores de teatro.* のように、「期間内」を表す一方、2は *Volveré dentro de un mes.* のように、「(今から)～後」という意味で、発話時から示された時間を経たあとにイベントが起こることが表される。同様に、高垣(監)(2007)、Slager(2010)そして、二宮(2012)も *dentro de* の時間的意味は2つあるという立場をとっており、これら2つの意味の差異は、共起する時間表現の性質によって生じるものと考えられている。すなわち、*el Barroco* のように暦に基づいた時間表現や *esta semana* のように直示性を有する時間表現と共起すると1の意味で解釈される一方、*quince minutos* あるいは *un año* のように特定の期間ではなく、単に時間量を表す名詞と共起すると2の意味で解釈される。このとき、1の意味がメタファーを介して、『～の中に』という空間的意味から拡張していることは容易に説明可能である。というのも、*el Barroco* や *esta semana* は特定の期間であり、それを容器としてメタファー的解釈することで、空間的意味と時間的意味の関連性を説明することができるためである。例えば、(1)ではお金が箱の中にあることを、(4)はイベントが今週中に発生することを示しており、空間を示す『箱』が、時間を示す『今週』に対応している。

(1) El dinero está *dentro de* la caja.

(4) Lo haré *dentro de* esta semana.

しかしながら、2の意味は『～後』という意味であり、『～以内に』というような空間としての容器の内側を想起させるような意味で用いられていないため、一見すると『～の中に』という空間的意味との関連性を見いだすことが困難のように思われる。また、『～後に』に対応すると思われる容器の

端も内部の一部ではあるものの、なぜ時間的意味の場合にその部分のみが焦点化されるかが問題である。そして、1の意味のほうがより空間的意味に近いと思われるにもかかわらず、dentro de の時間的意味は2のみとしている辞書もあるため、1よりも2のほうがより中心的な意味であるとも考えられる。例えば、DRAE の dentro de の時間的意味の項では、「para indicar el término de un período de tiempo visto desde la perspectiva del presente」（DRAE : s.v. dentro）のように、2の意味に相当する意味のみを記述している。そこで、1と2のどちらがより使用頻度が高く、より中心的な意味であるのか、CREA を利用し、dentro de [una semana /esta semana, un mes /este mes, un año /este año] のそれぞれが用いられている例文を検索し、実際の使用頻度の検証をおこなった。その結果、不定冠詞が用いられている例、すなわち時間量を表す名詞と共起する例が、直示性を表す este, esta が用いられている例に比べ、ずっと頻度が高いことが明らかになった<sup>3</sup>（長縄：2015）。したがって、dentro de の時間的意味は、上記の定義の2の意味がより一般的な用法であると考えられる。本稿では、1より2の意味が一般的な用法であると考えられるものの、どちらがより中心的な意味であるのかについては議論せず、むしろ1と2は空間的意味からそれぞれ独立して意味が拡張されているという考えに基づき、とりわけ2の意味が空間的意味から概念メタファーを介して、どのように拡張したと考えるのが妥当であるのか考察をおこなう。

### 3. 空間と時間との関係

本稿の冒頭で述べたように、Lakoff & Johnson (1980) は、わたしたちが時間を認識する際に空間をメタファー化し、概念化していることを主張している。これは英語の言語表現をもとにする主張であるが、スペイン語でも空間と時間の間には相関関係が観察されるといわれている。例えば、Cuenca y Hilferty (1999) は起点と終点が示されると、おのずと経路が示唆され、加えて、その経路を進めば進むほど、それだけ時間が経過することから、空間と時間は互いに関連していると述べる。

---

3 それぞれの該当件数は una semana : 87件, esta semana : 2件, un mes : 108件, este mes : 3件, un año : 167件, este año 件 : 10である。検索条件は特に指定していない。

«Lógicamente, para ir desde el punto de partida hasta el punto de llegada, el viajero tiene que recorrer el trayecto. Más aún, existe una clara correlación entre el espacio y el tiempo : progresar en el espacio implica necesariamente progresar en el tiempo. Por consiguiente, cuanto más camino se recorre, más tiempo pasa».

— Cuenca y Hilferty (1999 : 138) 筆者により一部変更

この記述を根拠に Cuenca y Hilferty は «ir + a + 不定詞» が空間的移動を表す意味から未来を表す時間的意味への拡張であることを説明し、また、Garachana (2011) も同様に、空間的移動を表す *ir*, *venir* や *volver* といった語が時間的意味を有しているのはメタファー的解釈によるものと述べている。

そこで、空間的移動とそれに要する時間の関係に着目し、その関係が前置詞 *a* のふるまいに表れていることを確認する。というのも、前置詞 *a* も前置詞句 *dentro de* と同様に空間的意味および時間的意味を有する語であり、この前置詞の時間的意味は後述する主観的移動によって生じているものと考えられるためであり、さらに、*dentro de* の時間的意味も同様の原理で生じていると考えられるためである。

### 3.1. 空間的な移動と主観的な移動

ここでは松本 (1997) の記述をもとに、移動の概念、さらに先に言及した主観的移動について確認する。松本 (1997) によれば、移動を規定するには、移動する物体、移動の経路、そして移動の継続時間が要素として必要である。

『移動とは時間の経過に伴って起こる物体の位置の変化である。したがって移動には移動物、移動の経路、そして移動の継続時間が存在する。』

— 松本 (1997 : 128)

このことについて、スペイン語においても同様のことがいえると考えられ、例えば (5) は移動を表す。

(5) Si ahora se tarda dos horas en ir desde mi pueblo hasta la capital, antes era una jornada entera.

(5) は空間的な移動であり、この移動から *subjective motion* (Langacker : 1987) つまり、松本 (1997) がいうところの「主観的移動」が拡張されたと考えられる。ここで、主観的移動とは『主語で表されている物体を認識する際に、認識者の心に想起される移動がもとになって』(松本 1997 : 207) 拡張された表現であり、さらに、この主観的移動に基づいた表現に「到達経路表現」が見られる。これは (6) および (7) のように、主語で表された物体の位置を認識、表現する際に話者の心の中で主観的移動がおこなわれ、主語で表された物体の位置がそこへ行くための経路で表現される (松本 1997 : 208)。例えば、(6 a) では前置詞句 *across the river* によって、経路の終結点が表示されており、主語である *a tower* が話者の主観的移動によって、その終結点、すなわち「川を渡ったところに」存在していることが示される<sup>4</sup>。また、(7 a) も到達経路表現であり、本来、前置詞句 *from here* だけでは起点しか示すことができず、主語の *the station* の位置を定めることが不可能であるが、移動継続時間である *five minutes* を共起させることで、起点からの距離が明確になり、主観的移動が可能となり、位置が規定される。

- (6) a. There is a tower across the river.  
b. 川を渡ったところに塔が立っている。 - 松本 (1997 : 220)
- (7) a. The station is five minutes from here.  
b. 駅はここから 5 分行ったところにある。 - 松本 (1997 : 225)

以上は英語および日本語における到達経路表現であるが、前者は *across the river* のような前置詞句、そして後者は「渡った」のような動詞句で表現され、言語によって経路を表す形式が異なる。そこで、次項ではスペイン語において到達経路表現がどのような形式で表されるのかを観察する。

---

4 日本語では「渡る」という移動動詞が用いられているため、主観的移動がおこなわれていることが想像できるものの、英語においては、(5) のように、*across* を「～の向こう側に」と解釈すれば、これは静的な位置表現であり、移動経路は存在しないといえそうである。しかしながら、このような前置詞句は経路の終結点だけでなく、経路の他の地点にも言及できる点、前置詞句を重ねることによって連続的経路を作ることが可能である点、そして移動継続時間が存在している点、以上3つの根拠から、任意の物体が時間の経過とともに経路に沿って移動して行くことが想定できる。(松本 1997 : 220-221)



### 3.2. スペイン語における到達経路表現

先に述べたように、主観的移動のひとつである到達経路表現は言語によって表示される形式が異なるため、スペイン語ではどのように表示されるか確認する必要がある。そこで、本稿では終点を表す前置詞 *a* を例にあげ、とりわけ空間距離と移動継続時間の観点から観察をおこなう。

スペイン語では、ある2点間の空間的距離を表す場合に (8) や (9) のような表現方法が見られる。

(8) De mi casa al coche hay **dos kilómetros**

(9) El coche está a **dos kilómetros** de mi casa

(8), (9) – Cabezas Holgado (2015: 26)<sup>5</sup>

いずれも同じ事態を表現してはいるが、(8) は単に *mi casa* と *el coche* の間の距離が2キロメートルであることを述べているのに対し、(9) は主語である *el coche* が話者の心の中で起点である *mi casa* から主観的移動した距離が *a* によって示されている。英語では *across* や *over* など、経路を想起させる前置詞と用いられる到達経路表現が観察されるが、スペイン語ではこれらに該当する前置詞が存在しないため、(9) のように起点および終点を表す表現と共起させることで、経路を想起させていると考えられる。このように、起点と終点を表示することで経路が示唆されることは前述の Cuenca y Hilferty (1999) の主張と合致する。

また、スペイン語は (10) – (12) のように、空間的距離の代わりに移動継続時間を用いて距離を表すことが可能であるが、これもまた (9) と同様に到達経路表現と考えられ、空間と時間が密接に関連付けられることがうかがえる。(10) は *la universidad* が、起点の *la estación* から約5分移動したところに位置していることを述べている。一方、(11) も同様に *aquí* から *el hotel* までの距離を移動継続時間で表現しているが、(10) と異なり、徒歩で10分以内と表されているように、移動継続時間と移動の様態と共起させて距離を示している。そして、(12) は *estar* のような位置を表す動詞でなくても起点とそこからの移動継続時間を表示させることで、*vivir* のような状態動詞を用いて、その動作がおこなわれている地点を示すことが可能な例である。

5 以下、特にことわりがない場合は、太字は筆者によるものである。

dentro de の空間的意味から時間的意味への拡張について (長縄)

- (10) La universidad está a **unos 5 minutos** de la estación.  
- 高垣 (監) (2007 : s.v. estar)
- (11) El hotel está situado a **menos de diez minutos** a pie de aquí.  
- 小池他 (編) (2014 : s.v. ものの)
- (12) Viven a **15 minutos** de la estación.  
- 高垣 (監) (2007 : s.v. a)

ここまで、スペイン語の経路到達表現について観察し、前置詞 a を例に空間的距離と移動継続時間が関係していることを確認した。

#### 4. dentro de の空間的意味と時間的意味の対応関係

本稿では、dentro de の空間的意味が時間的意味へ拡張されるメカニズムを、概念メタファーを用いて説明することを試みているが、ここで概念メタファーの概念を改めて概観し、空間的意味のどの要素が時間的意味のどの要素に対応しメタファー化されているかを観察する。

##### 4.1. 概念メタファー

概念メタファー (la metáfora conceptual) は Lakoff & Johnson (1980) により提唱された概念であるが、英語や日本語のみならず、Soriano (2012) が述べるように、スペイン語でも適用できる概念であると考えられている。概念メタファーとは、ある概念領域を別の概念領域で示すことをいい、具体的な領域で抽象的な領域を示すのが一般的である。このとき、前者を起点領域 (dominio fuente) とよび、後者を目標領域 (dominio meta あるいは dominio destino) とよぶが、概念メタファーが成立していることを説明するにはこの2つの領域のどの要素とどの要素が対応しているのか、つまり領域間の写像 (proyección) がどのようにおこなわれているかを確認する必要がある。

«La metáfora conceptual es un fenómeno de cognición en el que un área semántica o dominio se representa conceptualmente en términos de otro. Esto quiere decir que utilizamos nuestro conocimiento de un campo conceptual, por lo general concreto o cercano a la experiencia física, para estructurar otro campo que suele ser más abstracto. El primero se denomina *dominio fuente*,

puesto que es el origen de la estructura conceptual que importamos. El segundo se denomina *dominio meta o destino*».

— Soriano (2012: 97) イタリックは原文ママ

そこで、本稿で扱う概念メタファー EL TIEMPO ES ESPACIO を *dentro de* の空間的意味と時間的意味に応用させるために、起点領域内の各要素が目標領域のどの要素に反映されているのかを明らかにする。

#### 4.2. 起点領域（空間的意味）

起点領域とされる *dentro de* の空間的意味における際立った特徴は 1. で詳述したとおり、これが境界の内側と外側をより意識させる語であるということである。この特徴から、再度 (1) を例にして目標領域に対応する要素を考察する。

(1) El dinero está *dentro de* la caja.

(1) では *la caja* によってその内側と外側を隔てる境界、すなわち箱の内部と外部を示すことが可能である。ここで、境界で囲まれている範囲を考えたときに、その端から端、つまり境界上の任意の一点を始点とし、それに向かいあうもう一点を終点として結ぶと空間的距離を示すことが可能である。このとき、主語である *el dinero* が境界の間に位置づけられ、『お金が箱の中にある』ことが示される。

これらの要素すなわち境界上の 2 点、その 2 点の間の空間的距離、そしてその間に位置づけられる物体が起点領域に含まれるものとした場合に、それぞれが目標領域である時間的意味のどの要素と対応関係を構築しているのか次項で観察する。

#### 4.3. 目標領域（時間的意味）

2. で考察したとおり、目標領域である時間的意味は共起する時間表現、すなわち特定の期間を表す時間表現と時間量を表す時間表現によって意味が異なるとされる。ここでは、それぞれの時間的意味における目標領域の要素を考察し、これが 4.2. で考察した起点領域の要素とどう対応しているかを確認することで、概念メタファーが成立していることを主張する。

#### 4.3.1. 特定の期間を表す時間表現と共起する場合

(4) は dentro de が特定の期間を表す時間表現と共起する例で、dentro de esta semana は『今週中に』という意味であり、示された期間内にイベントが起こることを表している。

(4) Lo haré *dentro de* esta semana.

起点領域の要素は境界上の2点、その2点の間の空間的距離、そしてその間に位置づけられる物体の3つがあり、これを目標領域である時間的意味に対応させると、まず境界上の2点、つまり始点と終点は *esta semana* の期間の開始時点と終了時点であると考えられる。*esta semana* は直示性を有する表現であり、現在時点を含む月曜日から日曜日まで、あるいは日曜日から土曜日までの1週間を指すのが一般的な解釈である。つまり、このような時間的な直示性を有する表現は期間の開始時点と終了時点を示唆するが、これが起点領域の境界上の2点に対応している。同様に、1週間という時間量は起点領域における空間的距離に対応し、そして起点領域の要素である2点間に位置づけられる物体は目標領域のイベント発生時点に相当すると考えられる。以上から、起点領域の各要素が目標領域の各要素に対応しているといえそうであり、これにより時間的意味は空間的意味から概念メタファーによって拡張されていると考えることが可能なのである。

#### 4.3.2. 時間量を表す時間表現と共起する場合

一方、(2) の dentro de un mes のように時間量と共起する場合には (4) とは異なる様相を呈する。つまり、この場合には『(今から) 1ヶ月後に』という意味であり、示された時間量を経た時点でイベントが発生することが表されている。

(2) Volveré *dentro de* un mes.

un mes のような単に時間量を表す不定の名詞句では、(4) の *esta semana* のように期間の開始時点と終了時点は意識されない。そのため、dentro de の空間的意味に、境界を際立たせる特徴が見られることを考慮すると、その境界と考えられる期間の開始時点および終了時点に何らかの要素が必要と思

われる。それは、起点領域の境界を示す2点に対応する目標領域の要素をそれぞれ「発話時点」と「イベント発生時点」と設定することにより、時間量で表された期間の開始時点と終了時点を表すことが可能になる。終点をイベント発生時点と定めることができる理由は、3.で述べた主体的移動を用いることで説明可能と思われるが、ここで(10)を再掲して、主体的移動とどのように関わるのか確認する。

(10) La universidad está a **unos 5 minutos** de la estación.

(10)において、発話者は la estación を起点とし、そこから必要とされる移動継続時間を用いて la universidad までの距離を表しているが、このとき la universidad は起点である la estación から主体的移動をおこなっていると見なす。これを本項で扱っている dentro de の時間的意味に応用すると、時間量は起点から終点までの移動継続時間ととらえることが可能であるため、イベントが発話時点から示された時間量の分だけ時間軸上を移動し、その終点に至ったときにイベントが発生すると考えることで終点をイベント発生時点と見なすことが可能となる。「イベントが時間軸を移動する」こと自体は物理的にはありえず、そもそもこの表現自体がメタファーであるが、このような表現は例えば(13)および(14)のように、スペイン語においても見られる。例文内に表れている el verano や los exámenes はそれ自体が意思を持って移動する物体ではないにもかかわらず、llegar や aproximarse のような移動を表す動詞で表すことが可能である。また、日本語訳にも『やってくる』や『近づいた』といった移動を表す表現が見られ、日本語においてもイベントを移動する物体として表現することが可能である。

(13) Por fin ha llegado el verano. 『ついに夏がやってきた。』

－小池他(編)(2014: s.v. 来る)

(14) Se aproximan los exámenes. 『試験が近づいた。』

－小池他(編)(2014: s.v. 近付く)

また、起点領域の2点間に位置づけられる物体に相当する目標領域の要素は行為をおこなう主体であると考えられる。例えば、(2)では volver とい

う行為をおこなう yo が起点領域でいうところの境界内に位置づけられる物体に相当する。このとき、行為をおこなう主体が時間軸上を発話時点からイベント発生時に向かって心的に移動していると考えれば、この主体は時間軸上の2時点の間に位置づけられる。これは時間は空間と異なり、未来に向かって進んでいくために生じる移動であると考えられるが、このことについては次項で別の例をあげながら説明を試みる。

以上で述べた、起点領域と目標領域の各要素がそれぞれどのように対応しているかをまとめたものが表1である。

	起点領域（空間的意味）	目標領域（時間的意味）
例文	(1) El dinero está dentro de la caja.	(2) Volveré dentro de un mes.
dentro de にあたる日本語	～の中に	～後に
起点	端（境界上の任意の1点）	発話時点
終点	もう一方の端（起点と向かい合う1点）	イベント発生時点
距離	端から端	発話時点からイベント発生時点までの時間量 移動をするイベントの移動継続時間
主語（行為をおこなう主体）の位置	端から端の間	発話時点とイベント発生時点までの間

表1 概念メタファーによる空間的意味から時間的意味への拡張の様子

#### 4.3.3. 時間的意味における「移動」の概念

前項 4.3.2. では空間的意味から『～後に』にあたる時間的意味が概念メタファーによって拡張されるととらえた場合に、それぞれの意味領域内の各要素がどのように対応しているかを考察した。ここでは、空間的意味には見られず時間的意味において見られる「移動」の概念について考察をおこなう。なお、ここで取り上げる移動は 3.1. で述べた「主体的移動」とは分けて別に考える。

- (1) El dinero está *dentro de* la caja.
- (2) Volveré *dentro de* un mes.

(1) は空間的意味、(2) は時間的意味で *dentro de* が用いられているが、(1) の主語である *el dinero* は *la caja* で定められた境界の内部に位置しているとすると、(2) の主語である *yo* も時間軸上の発話時点とイベント発生時点を始点と終点とする2点で定められた境界の内部に位置させる必要がある。(2) の意味は時間軸をもとに考えているため、主語の *yo* は発話時点からイベント発生時点に向かって時間軸上を移動しているのとらえることで、これら2時点の間に *yo* が位置していると考えることが可能となる。しかしながら、(1) のような空間的意味の場合にはその移動は起こりえないため、空間的意味には存在しない要素が時間的意味では存在するため、両者の間には対応関係が成立しない。しかしながら、時間は空間とは異なり、現在時点から未来に向かって進んでいくものととらえられるため、主語かつ行為をおこなう主体でもある *yo* は発話した直後からイベント発生時点に向かって心的移動するものとする<sup>6</sup>。

このような心的移動が空間的意味ではなく、時間的意味の場合に見られる語が *encima* である。DRAE (s.v. *encima*) によれば、*encima* は空間的意味の場合には «En lugar o puesto superior, respecto de otro inferior» と基準となるものよりも上の位置を表すのに対し、時間的意味の場合には «Muy próximo en el tiempo» と時間的な近接が表される。

(15) Teníamos *encima* la Cruz del Sur.

『私たちの頭上には南十字星が輝いていた。』

(16) Tengo una oposición *encima*. 『採用試験が近づいている。』

(17) Tenemos demasiados problemas *encima*.

『私たちは多くの問題を抱えている。』

(15) – (17) – 高垣 (監) (2007: s.v. *encima*) イタリアックは原文ママ

---

6 この例は主語と行為をおこなう主体が一致している例であるが、例えば、主語が次の例のようにイベントである場合は、そのイベントをおこなう主体が時間軸上の移動がおこなわれると考える。

Este nuevo fracaso de los ministros de Agricultura viene a complicar de forma importante la preparación de la próxima cumbre europea que tendrá lugar en la capital de Dinamarca *dentro de* una semana. –CREA イタリアックは筆者

(15) は『～の上に』という空間的意味を表すのに対し、(16) はイベントが『近づき、差し迫っている』という時間的意味を表している。ここで着目すべき点は主語が yo であり、yo がイベントである una oposición に心的に近づいていることが encima によって表されていることである。一方で、(15) は単に空間的配置を表しているのみと考えられ、主語の心的移動は認められない。ただし、この心的な接近は (17) のように抽象的な意味で用いられる場合にも示唆される。

encima については空間的意味の主語とその上に存在する物体と、時間的意味の主語とその先、つまり未来に存在するイベントがそれぞれ対応すると考えられるが、そのイベントに対する接近は時間が未来に向かって進んでいるゆえに生じると思われる。

ここまで、『～後に』を意味する dentro de の時間的意味における主体の時間軸上の移動の概念を、encima の時間的意味を例として説明を試みたが、これは空間と時間の構造の違いから生ずるものであると考えられる<sup>7</sup>。

## 5. おわりに

本稿では、dentro de の空間的意味が概念メタファー EL TIEMPO ES ESPACIO を通して時間的意味へ拡張される場合に、その起点領域と目標領域内のそれぞれの要素がどのように対応関係を構成しているか考察をおこなった。

時間的意味は共起する時間表現によって異なる2つの意味を有するとされている。1つは『～中に』という意味で、特定の期間を表す時間表現と共起し、示された期間内にイベントが実現することが表される。この場合、空間的意味にあたる起点領域の要素は境界上の2点、その2点間の空間的距離、その間に位置づけられる物体の3つであり、これらを時間的意味にあたる目

---

7 時空間メタファーに関する先行研究では、次元性や移動の方向性について、空間と時間では構造が異なることがすでに指摘されている。また、本多(2011)では、これに加えて次のことを指摘している。『空間には大地が存在して、それが移動を認識する際の不動の基準として選ばれやすい。そのため、大地との関係で位置を変えないもの(駅などの建築物、神戸などの都市、山、川など)は移動体と認識されにくい。それに対して時間には、空間における大地に相当する不動の基準が存在しない。そのため、移動の概念化において、何が基準と捉えられ、何が移動体と捉えられるかの制約が空間の場合に較べて緩くなる。』(本多2011: 82)



標領域の要素に対応させると、境界上の2点は特定の期間の開始時点と終了時点、そして空間的距離はその期間で表される時間量に相当する。3つ目の2点間に位置づけられる物体はイベント発生時点に対応することから、時間的意味は空間的意味からをもとに拡張されると考えられる。

もう1つは『(今から)～後に』という意味で、時間量を表す表現と共に起し、示された時間量を経た後でイベントが発生することが表される。この場合、共起する名詞句は不定かつ単に時間量を表すだけのものであるため、期間の開始時点と終了時点は意識されない。それゆえ、起点領域の要素である境界上の2点に対応する目標領域の要素として、開始時点には発話時点を、そして終了時点にはイベント発生時点をあてることを、「主体的移動」の概念を援用しながら提案した。また、起点領域の2点間の空間的距離は目標領域における時間量に対応し、そして2点間に位置づけられる物体は目標領域では行為をおこなう主体に対応すると考えられる。後者の点については、行為をおこなう主体が時間軸上を未来つまりイベント発生時点に向かって心的に移動していると考えれば、この主体を時間軸上の2時点の間に位置づけることが可能である。この現象は時間が空間と異なり、常に動くものと考えられ、未来に向かうために生じる移動であるが、このような心的な移動については *encima* の時間的意味の例もあげながら、説明を試みた。

本稿における提案では、上記2つの時間的意味は空間的意味からそれぞれ独立して拡張していることを主張している。換言すれば、時間的意味の『～中に』という意味から同じ時間的意味の『(今から)～後に』という意味が拡張しているとは考えず、『～の中に』という空間的意味からそれぞれの意味が概念メタファーを介して拡張されていると考える。

また、本稿では *dentro de* の『～後に』という意味が空間的意味から拡張されるメカニズムを考察したが、そのなかで起点がなぜ発話時となるのかは言及しなかった。というのも、境界を形成する2時点のうちの開始時点が発話時であることは、*dentro de* のこの時間的意味が本来有している性質として設定しているだけであり、空間的意味にそのような性質を有する要素はなく、*dentro de* が直示性を有することをメタファーで説明することが困難であると思われたためである。この時間的意味のみで生じる直示性をどのように扱うのか、つまり概念メタファーを援用できるのか、また空間にはない時間特有の性質のものとして扱うのか、今後の課題として残される。これに加え、*Volveré en cinco minutos* のように、*dentro de* の代わりに用いることが可

能とされる前置詞 en との差異についても別の機会に扱いたい。

参考文献

- Cuenca, María Josep y Joseph Hilferty (1999) *Introducción a la lingüística cognitiva*, Ariel.
- DRAE = Real Academia Española (2014) *Diccionario de la lengua española 23ª edición*, Espasa-Calpe.
- Fernández Jaén, Jorge (2014) *Principios fundamentales de semántica histórica*, Arco/Libros.
- Garachana, Mar Camarero (2011) “Del espacio al tiempo en el sistema verbal del español. Las perífrasis verbales *ir + a + infinitivo*, *venir + a + infinitivo* y *volver + a + infinitivo*” en Sinner, Carsten, José Luis Ramírez Luengo, María Jesús Torrens Álvarez (coord.) *Tiempo, espacio y relaciones espacio-temporales desde la perspectiva de la lingüística histórica*, Cilengua, 89-124.
- Hernández, Patricia C. (2013) La locución prepositiva *dentro de* como marcador de bordes. Una descripción según el enfoque cognitivo-prototípico, *Lingüística*, 29(1) : 81-114.
- Lakoff, George & Mark Johnson (1980) *Metaphors We Live By*, The University of Chicago Press.
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar* Vol.1, Stanford University Press.
- Salamanca = Gutiérrez Cuadrado, Juan (dir.) (1996) *Salamanca : Diccionario de la lengua española*, Santillana.
- Slager, Emile (2010) *Las preposiciones en español*, Castalia.
- Soriano, Cristina (2012) “La metáfora conceptual” en Ibarretxe-Antuñano, Iraide y Javier Valenzuela (dirs.) *Lingüística Cognitiva*, Anthropos Editorial, cap 2.3 : 97-121.
- 定延利之 (2002) 「時間から空間へ？」生越直樹 (編) 『対照言語学』東京大学出版会 : pp.183-215.
- 高垣敏博 (監) (2007) 『西和中辞典 (第2版)』小学館.
- 長縄祐弥 (2015) 「時間表現と共起する en と dentro de に関する一考察」 *Estudios Hispánicos* 39 : pp.93-120.
- 二宮哲 (2012) 「*Dentro de* + S(intagma) N(ominal) definido o indefinido」 SELE 2012 口頭発表、2012年8月29日.

- 本多啓 (2011) 「時空間メタファーと視点－生態心理学の自己知覚論をふまえて－」  
『人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会資料 SIG-LSE-B 003：ことば工学  
研究会（第37回）』 pp.77-86.
- 松本曜 (1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」田中茂範、松本曜『空間と移動の  
表現』研究社：125-230.
- 舩山洋介 (1992) 「多義語の分析－空間から時間へ」カッケンブッシュ寛子他（編）  
『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会：pp.185-199.
- (1995) 「多義語のプロトタイプの意味の設定方法と実際－意味転用の一方向  
性：空間から時間へ」『東京大学言語学論集』14：pp.621-639.

資料体

- Cabezas Holgado, Emilio (2015) *La preposición I*, Arco/Libros.
- CREA = REAL ACADEMIA ESPAÑOLA: Banco de datos (CREA) [en línea] Corpus  
de referencia del español actual. Disponible en (<<http://www.rae.es>>) [最終アクセス  
日：2015年12月21日]
- 小池和良他（編）(2014)『和西辞典』小学館.
- 高垣敏博（監）(2007)『西和中辞典（第2版）』小学館.